

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間の尊厳と自立		介護福祉学科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	山本 元

授業の概要

・人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。

授業終了時の到達目標

- ・人間の理解を図る
- ・人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する

実務経験有無

実務経験内容

有

介護福祉士として9年の実務経験
これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること

時間外に必要な学修

テキスト、配布プリントの復習しておくこと

回	テーマ	内容
1	①人間理解と尊厳 1. 本科のねらいと概要	人間の尊厳についてグループワークを行う
2	2. 自己理解・他者理解1：自己理解の重要性	自己覚知について解説
3	3. 自己理解・他者理解2：他者理解について	他者理解について解説
4	4. 自己理解・他者理解3：他者と自己の価値観の相違	生活歴と価値観について学ぶ
5	5. 自己理解・他者理解4：人間の多面的理解について	多面的理解の方法について学ぶ
6	6. 自己理解・他者理解5：自己の置かれている環境とは	環境の重要性について解説
7	7. 自己理解・他者理解6：支援者として自分を見つめる	支援者としての介護観、倫理について学習する
8	8. 自己理解・他者理解7：自律と自立	自立の概念について学ぶ
9	②人権と尊重 9. 人権尊重と権利擁護1：権利としての人権（制度としての人権を考え	制度における権利擁護を学ぶ
10	10. 人権尊重と権利擁護2：事例検討（施設介護について）	グループワーク、事例検討、人権擁護の在り方を学習する
11	11. 人権尊重と権利擁護3：事例検討（在宅介護について）	グループワーク、事例検討、人権擁護の在り方を学習する
12	12. 人権尊重と権利擁護4：事例検討（社会福祉について）	グループワーク、事例検討、人権擁護の在り方を学習する
13	13. 介護における尊厳の保持・自立支援1：医学モデルと生活モデル	医学モデルと生活モデルの違いを学習し、支援者としての在り方を学ぶ
14	14. 介護における尊厳の保持・自立支援2：エンパワメントについて	エンパワメントにつながる支援方法を考察する
15	15. 人権と尊重：まとめ	人権尊重、尊厳の重要性を考察する

回	テ ー マ	内 容		
		教科書・教材	評価基準	評価率
	介護福祉士養成講座 第1巻 中央法規出版 適宜資料、プリント配布	総合評価	100.0%	準備学習：テキストを事前に熟読しておくこと 採点内訳：確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間関係とコミュニケーション		介護福祉学科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	4単位(30時間)	必須	豊田 章裕

授業の概要

・介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。また、介護福祉士としてのチームマネジメント力を身につける。

授業終了時の到達目標

- ・介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う
- ・他者理解や情報の伝達に必要なコミュニケーション能力を養う
- ・介護福祉士としてのチームマネジメントについて理解する

実務経験有無

実務経験内容

有

介護福祉士として9年の実務経験
これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること

時間外に必要な学修

テキスト、配布プリントの復習をしておくこと

回	テーマ	内容
1	①コミュニケーション基礎 1. 自己覚知、他者理解	自己覚知、他者理解の方法を学習する
2	2. ラポール1：支援関係における人間関係の重要性について	人間関係の仕組みについて解説する
3	3. ラポール2：職業倫理をふまえた専門的支援関係について	職業倫理と専門的支援関係を学ぶ
4	4. 対人関係1：コミュニケーションの意義	対人関係におけるコミュニケーションの意義を学ぶ
5	5. 対人関係2：コミュニケーションの概要	対人関係におけるコミュニケーションの概要について学ぶ
6	6. 言語的コミュニケーション（理論）	言語的コミュニケーションの特徴について学習する
7	7. 非言語的コミュニケーション（理論）	非言語的コミュニケーションの重要性を学び、ロールプレイを行い理解を深める
8	②コミュニケーション技術 8. 対人距離	対人距離についてロールプレイを行い、適切な対人距離を知る
9	9. コミュニケーション環境	適切なコミュニケーション環境を学ぶ
10	10. 受容、傾聴、共感	受容、共感、傾聴について学習し、グループワーク等で理解を深める
11	11. 様々なコミュニケーション手段について1：道具を用いた言語的コミュニケーション	文字媒体を活用したコミュニケーションを考え、グループワークを行う
12	12. 様々なコミュニケーション手段について2：記述によるコミュニケーション	相手に伝わるための記録について学習する
13	13. 言語的コミュニケーション（演習）	相手に伝わる言語的コミュニケーションを考える
14	14. 非言語的コミュニケーション（演習）	グループワーク、ロールプレイにより非言語的コミュニケーションの効果を学習する

回	テーマ	内 容		
15	15. 多職種との連携、まとめ	多職種連携を図る上でのコミュニケーションの重要性を学習する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第1巻 中央法規出版 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護福祉総論		介護福祉学科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	山本 元
授業の概要				
介護福祉士における基本的な知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
介護福祉士としての基本的な知識、技術を学び。各科目ごとにおいて重要なポイントを理解できる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	介護福祉士として9年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	人間と社会 人間の尊厳と自立	尊厳と自立の重要なポイントを理解する		
2	人間と社会 人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションの重要なポイントを理解する		
3	介護 介護の基本Ⅰ	介護の基本Ⅰの重要なポイントを理解する		
4	介護 介護の基本Ⅱ	介護の基本Ⅱの重要なポイントを理解する		
5	介護 コミュニケーション技術Ⅰ	コミュニケーション技術の重要なポイントを理解する		
6	介護 生活支援技術Ⅰ	生活支援技術Ⅰの重要なポイントを理解する		
7	介護 生活支援技術Ⅳ	生活支援技術Ⅳの重要なポイントを理解する		
8	こころとからだのしくみ 発達と老化の理解Ⅰ	発達と老化の理解Ⅰの重要なポイントを理解する		
9	こころとからだのしくみ 発達と老化の理解Ⅱ	発達と老化の理解Ⅱの重要なポイントを理解する		
10	こころとからだのしくみ 認知症の理解Ⅰ	認知症の理解Ⅰの重要なポイントを理解する		
11	こころとからだのしくみ 認知症の理解Ⅱ	認知症の理解Ⅱの重要なポイントを理解する		
12	こころとからだのしくみ こころとからだのしくみ:こころ	こころとからだのしくみ:こころの重要なポイントを理解する		
13	こころとからだのしくみ こころとからだのしくみ:からだ	こころとからだのしくみ:からだの重要なポイントを理解する		
14~ 15	医療的ケア	医療的ケアの重要なポイントを理解する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを

回	テ ー マ	内 容	
			熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
文章理解		介護福祉学科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	山本 元
授業の概要				
生活支援技術における専門用語を学び、生活支援技術の授業で理解度を高めることができる。				
授業終了時の到達目標				
生活支援技術の専門用語を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
問題プリントの予習、留学生は復習として母国語に変換する				
回	テーマ	内容		
1~3	生活支援技術専門用語理解	介護における専門用語について理解を深める		
4	生活支援技術専門用語テスト①	確認テスト①		
5~7	生活支援技術専門用語理解	介護における専門用語について理解を深める		
8	生活支援技術専門用語確認テスト②	確認テスト② 5~6回の復習		
9~11	生活支援技術専門用語理解			
12	生活支援技術専門用語確認テスト③	確認テスト③ 9~11回の復習		
13~14	生活支援技術専門用語理解			
15	生活支援技術専門用語テスト④	確認テスト④ 13~14回の復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前配布プリント

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護の基本 I		介護福祉学科/1年	2025/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	60回	8単位(120時間)	必須	新田 奈生子
授業の概要				
介護福祉士として、喀痰吸引や経管栄養などの医療的ケアに関する知識と技術を習得し、安全かつ適切な実施ができるようになり、尊厳を守りながら医療的ケアを提供できるようになる。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアの基礎知識(制度的背景、倫理、安全管理)を理解する。 ・喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管カニューレ)、経管栄養(鼻腔・経鼻)について知識と手順を理解する ・安全な実施のための観察・記録報告ができるようになる ・チームアプローチの重要性と医療食との連携方法を理解する。 ・感染防止策および緊急時の対応の基本を習得する。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として23年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	医療的ケアの意義と概要	医療的ケアの定義、目的、介護福祉士の役割、法的根拠(社会福祉士及び介護福祉士法)		
2	医療的ケアにおける安全と倫理	安全確保の原則		
3	人体構造と機能	人体構造の基礎、主要臓器の概要		
4	呼吸器の構造と働き①	気道・肺の構造、換気のしくみ、咳・痰について		
5	呼吸器の構造と働き②	酸素と二酸化炭素の交換、呼吸状態の観察項目		
6	消化器の構造と働き①	口腔～食道の構造と働き、摂食嚥下機能の理解		
7	消化器の構造と働き②	胃・腸・肝臓・膵臓の働き、消化と吸収		
8	感染予防と衛生管理	感染経路、標準予防策		
9	喀痰吸引の意義と概要	喀痰吸引の対象・適応、医療的ケアとしての役割		
10	吸引に使用する器具と準備	吸引機・カテーテル・個人防護具などの使用方法と準備		
11	吸引における観察とアセスメント	呼吸音・顔色、意識状態など、実施前後の観察点		
12	口腔内吸引の実施	手順、体位、実施時の注意点		
13	鼻腔内吸引	実施方法、カテーテル挿入深度の目安		
14	気管カニューレの基礎知識	カニューレの種類、構造、感染予防		

回	テ ー マ	内 容
15	気管カニューレ吸引の実施①	実施手順、安全管理、観察項目

回	テーマ	内容
16	気管カニューレ吸引の実施②	実技練習・ケース演習
17	吸引後のケアと記録	実施後の観察、口腔ケア、記録と報告の方法
18	経管栄養の意義と基本知識	経管栄養の目的、対象者、リスクとメリット
19	栄養剤とチューブの種類	栄養剤の種類、保存方法、経鼻経管と胃ろうの違い
20	経鼻経管栄養の意義と基礎知識	チューブ確認、体位調整、注入準備
21	経鼻経管栄養の実施	実施手順、誤嚥・嘔吐予防、注入速度
22	胃ろうの基礎知識	胃ろうチューブの構造、挿入部位の管理、感染予防
23	胃ろう栄養の準備	栄養剤準備、器具確認、体位確認
24	胃ろうの実施	注入手順、洗浄方法、異常時の対応
25	栄養後の観察と記録	呼吸状態、嘔吐・腹部膨満の確認、記録の方法
26	医療的ケアにおける緊急対応	吸入や栄養中の以上、窒息・誤嚥・チューブ事故などの対応
27	多職種連携と報告連絡相談	医師・看護師・家族との情報共有と役割分担
28	喀痰吸引①	模擬実技手順確認、チェックリストについて
29	喀痰吸引②	模擬実技手順確認、チェックリストについて
30	経管栄養①（経鼻経管）	注入手順の練習と評価
31	経管栄養②（胃ろう）	注入と洗浄の流れ確認・練習
32	総合演習	ケース対応、時間配分、観察→実施→記録まで一連の流れ演習
33	事例検討・リスクマネジメント	医療的ケア中に起こり得る事例の分析と対応策検討
34	総まとめと評価	知識確認テスト、技術評価、振り返りと今後の課題
35	35. 役割	高齢者の役割についてグループワークを行う。

回	テ ー マ	内 容
36	⑨障害のある人のくらしの理解 36. 障害とは	障害のある人の障害とはどのようなことなのか解説を行う。
37	37. 障害のある人の生活ニーズ 1	障害のある人の生活のニーズについて解説を行う。
38	38. 障害のある人の生活ニーズ 2	障害のある人の生活のニーズには何が考えられるかグループワークを行う。
39	39. 生活を支える基盤 1	生活を支える基盤とは何か解説を行う。
40	40. 生活を支える基盤 2	生活を支える基盤とは何か解説を行う。
41	41. 生活を支える基盤 3	生活を支える基盤とは何か解説を行う。
42	42. 生活を支える基盤 4	生活を支える基盤とは何か解説を行う。
43	43. 生活を支える基盤 5	生活を支える基盤とは何か解説を行う。
44	44. 生活を支える基盤 6	生活を支える基盤とは何か解説を行う。
45	45. 生活を支えるサービスとその現状 1	生活を支えるサービスとその現状について解説を行う。
46	46. 生活を支えるサービスとその現状 2	生活を支えるサービスとその現状について解説を行う。
47	47. 生活を支えるサービスとその現状 3	生活を支えるサービスとその現状についてグループワークを行う。
48	48. 生活を支えるサービスとその現状 4	生活を支えるサービスとその現状についてグループワークを行う。
49	49. ノーマライゼーション 1	ノーマライゼーションの実現について解説を行う。
50	50. ノーマライゼーション 2	ノーマライゼーションの実現についてグループワークを行う。
51	⑩介護を必要とする人の生活環境の理解	生活、生活環境の考え方について解説を行う。
52	51. 生活、生活環境の考え方 1 52. 生活、生活環境の考え方 2	生活、生活環境の考え方について解説を行う。
53	53. 家族の理解	家族の理解についてグループワークを行う。
54	54. 地域の理解	地域の理解について解説しグループワークを行う。
55	55. 社会の理解	社会について解説を行う。

回	テ ー マ	内 容		
56	⑪介護サービス 56. ケアプラン、ケアマネジメントの流れ1	ケアプランの作成、ケアマネジメントについて解説を行う。		
57	57. ケアプラン、ケアマネジメントの流れ2	ケアプラン、ケアマネジメントの流れについて解説を行う。		
58	58. 介護保険制度 1	介護保険制度について解説を行う。		
59	59. 介護保険制度 2	介護保険制度について解説を行う。		
60	60. サービスの報酬、算定基準	サービスの報酬、算定基準について解説を行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 医療的ケア		総合評価	100.0%	事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護の基本Ⅱ		介護福祉学科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	金井 太佑
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・多職種協働および地域の役割を理解し、ケアにおける連携の重要性を学ぶ。 ・介護従事者としての倫理を理解し、利用者の尊厳の保持や自立支援を目指した介護を学ぶ。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・多職種の役割を理解し、チームアプローチのしくみが理解できる。 ・利用者の尊厳を守った介護を実践できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として13年の実務経験あり これまでの介護実践を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①介護実践における連携 1. 多職種連携の意義と目的、他の福祉職種の機能と役割	多職種連携の意義と目的について学ぶ。		
2	2. 保健医療職種の機能と役割、その他の関連職種の機能と役割	利用者を支援する様々な専門職について、基礎的な理解を深める。		
3	②地域連携 3. 地域連携の意義と目的、インフォーマルサービスの機能と役割	地域連携の意義と目的について学ぶ。		
4	4. 地域包括支援センターの機能と役割、連携	地域の機関や組織について理解し、どのような役割を果たしているのか基礎的な知識を学ぶ。		
5~6	③介護従事者の倫理 5. 職業倫理 1、2	介護福祉士を取り巻く状況について理解する。		
7~8	7. 職業倫理 3、4	社会福祉士及び介護福祉士法の概要について学ぶ。		
9~10	9. 職業倫理 5、6	介護福祉士が守るべき義務規定の意味を学ぶ。		
11~12	11. 職業倫理 7、8	日本介護福祉士会の倫理綱領および活動を理解する。		
13	④利用者の人権と介護 13. 虐待 1	虐待の種類や現状について理解を深める。		
14	14. 虐待 2	虐待について理解を深め介護職における対応方法を学ぶ。		
15	⑤プライバシーの保護 15. 個人情報保護	個人情報保護法について理解を深める。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新介護福祉士養成講座 第3巻 第4巻 中 央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション技術 I		介護福祉学科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	金井 太佑

授業の概要

対人援助職としてのコミュニケーションのあり方について理解し、具体的な利用者・家族に対するコミュニケーションの技法に、ならびに介護チームの多職種間のコミュニケーション技法について学ぶ。

授業終了時の到達目標

- ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について理解し、自分の言葉で説明できる。
- ・利用者、家族との関係づくりについて理解する。
- ・さまざまなコミュニケーション技法について理解する。
- ・利用者個別の状態を理解し、それに応じたコミュニケーション技法について学び習得する。

実務経験有無

実務経験内容

有

介護福祉士として13年の実務経験あり
これまでの介護実践を活かし学生のロールモデルとなること

時間外に必要な学修

テキスト、配布プリントを復習しておくこと

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義全体の説明、アイスブレイク、自己紹介、プチレク
2	介護におけるコミュニケーションとは	コミュニケーションの意義と役割、コミュニケーションの基本
3	介護におけるコミュニケーションの役割 介護における生活支援とコミュニケーション	利用者・家族との信頼関係の形成、 利用者を深く理解するためのコミュニケーション、 介護福祉士に求められるコミュニケーション
4	話を聴く技法	話を聴く技法 【演習】「聴くこと」と「聴かないこと」の体験 【演習】「情景化」トレーニング
5	利用者の感情表現を察する技法	感情表現を察する技法 【演習】「共感」について～応答の技法～ 【演習】豊かな感情表現
6	利用者の納得と同意を得る技法	納得と同意を得る技法 【演習】要約して伝えよう 【演習】相手の尊厳を支える技法～リフレーミング～
7	質問の技法	質問の技法 【演習】開かれた質問と閉じられた質問 【演習】質問シャワー
8	相談・助言・指導の技法	相談・助言・指導の技法 利用者の相談を受ける技法
9	利用者の意欲を引き出す技法	利用者の意欲を引き出す技法 意欲が低下している利用者へのはたらきかけ
10	利用者と家族の意向を調整する技法	利用者と家族の意向を調整する技法 【演習】利用者と家族の意向を調整する 【演習】異なる意向の背景を知る
11	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法 【演習】グループサイズの相違と展開 【演習】グループ回想法の体験

回	テーマ	内 容		
12	コミュニケーション障害の理解	コミュニケーションの傷害とは、コミュニケーション障害の原因、コミュニケーション障害を理解する視点、さまざまなコミュニケーション障害		
13	コミュニケーション障害のある利用者への対応①	コミュニケーション障害のある利用者を支えるコミュニケーション技術 コミュニケーション障害の状態を観察し、情報収集する技術		
14	コミュニケーション障害のある利用者への対応②	コミュニケーション障害の傾向を分析・解釈・評価する技術 コミュニケーションの方法を立案し、実践する技術		
15	まとめ／試験対策	前期のまとめ 試験対策		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第5巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術 I		介護福祉学科/1年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	堀内 有美

授業の概要

- ・利用者がその人らしい生活を営むために必要な、介護技術を学び、個別に対応できる能力を養う。

授業終了時の到達目標

- ・利用者ニーズを理解し、優先順位を考えることができる。
- ・ICFの視点にもとづいて、介護技術を活用できる。
- ・自立に向けた介護技術を提供できる。
- ・他職種の役割を理解できる。

実務経験有無

実務経験内容

有

介護福祉士として11年の実務経験
これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること

時間外に必要な学修

テキスト、配布プリントを復習しておくこと

回	テーマ	内容
1	①身支度の介護 1. 身支度の意義と目的	身支度の意義と目的について解説を行う
2	2. アセスメント	アセスメントとは何か、またポイントについて解説を行う
3	3. 整容、衣生活の調整	整容・衣生活の調整について説明を行う。
4	4. 介助方法	身支度の介助方法について説明を行う
5	5. 利用者の状態に応じた介護の留意点 1	利用者の状態に応じた介護技術の注意点について解説を行う
6	6. 他職種の役割と協働	他職種にはどのようなものがあるか、各職種の役割について解説を行う
7	②移動の介護 7. 移動の意義と目的	移動することの意義、目的について解説を行う
8	8. アセスメント	移動についてのアセスメント方法について解説を行う
9	9. 安全な移動の介護 1	安全に移動する介助方法について、実技を交えながら解説を行う
10	10. 安全な移動の介護 2	安全に移動する介助方法について、実技を交えながら解説を行う
11	11. 介助方法	安全に移動できるように介助方法について実技を行う
12	12. 介助の留意点 1	移動の介助の実技を行いながら留意点について学ぶ
13	13. 介助の留意点 2	移動の介助の実技を行いながら留意点について学ぶ
14	14. 安楽な移動	安楽な移動について実技を行う
15	15. 他職種の役割と協働	他職種との役割と協働について解説を行う

回	テ ー マ	内 容		
16	③食事の介護 16. 食事の意義と目的	食事の意義と目的について解説を行う		
17	17. アセスメント	食事のアセスメントについて解説を行う		
18	18. 安全な食事介助	安全な食事介助とは何かを解説を行う		
19	19. 利用者の状態、状況に応じた介護の留意点	利用者の状態、状況に応じた介護の留意点について解説を行う		
20	20. 食事形態	食事形態について解説を行う		
21	21. 他職種の役割と協働	食事介助における他職種との連携について解説を行う		
22	④排泄の介護 22. 排泄の意義と目的	排泄の意義と目的について解説を行う		
23	23. アセスメント	排泄におけるアセスメントの方法について解説を行う		
24	24. 快適な排泄	快適な排泄とは何かを解説を行う		
25	25. 安全な排泄介助	安全な排泄介助を行うには、どのようにすればよいかを解説を行う。		
26	26. 尊厳を考えた排泄介助	尊厳を考えた排泄介助について解説を行う		
27	27. 尊厳を考えた排泄介助	尊厳を考えた排泄介助とは何かをグループワークを行う		
28	28. 利用者の状態、状況に応じた介助の留意点 1	利用者の状態、状況に応じた介助の留意点について解説を行う		
29	29. 利用者の状態、状況に応じた介助の留意点 2	利用者の状態、状況に応じた介助ができるよう実技を行う		
30	30. 他職種の役割と協働	他職種との役割と協働について解説を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第6巻 第7巻 第8巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅳ 介護予防とレクリエーションⅠ		介護福祉学科/1年	2025/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	堀内 有美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション活動計画の作成および実施方法を学ぶ。 ・レクリエーション活動援助者の役割を理解する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション計画を立案でき、自己のレクリエーション観を確立できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
配布プリント、課題は必ずしておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①レクリエーション支援論 1. ライフスタイル 2. レクリエーションの課題	ライフスタイルの中のレクリエーションについて学習する		
2	3. 行事とは 4. 地域レクリエーション	行事のあり方、企画について学習する 地域でのレクリエーションについて学ぶ		
3	5. 今後のレクリエーション変化 6. 個別性を考えたレクリエーション 1	レクリエーションのあり方の変化、個性のあるレクプログラム立案について学習する		
4	7. 個性性を考えたレクリエーション 2 8. レクリエーション企画 1	個性のあるレクプログラムを立案し、企画書を作成する		
5~ 6	9. レクリエーション企画 2 10. レクリエーション企画 3	企画書作成および、レク支援の準備		
7	13. プログラム 1 14. プログラム 2	企画書作成および、レク支援の準備		
8	15. プログラム 3 ②レクリエーション実技 16. 福祉レクリエーション 1	企画書作成および、レク支援の準備 福祉レクのポイントを学習する		
9	17. 福祉レクリエーション 2 18. コミュニケーションワーク 1	福祉レクのポイントを踏まえ、グループワークを行い、企画書の修正を図る		
10	19. コミュニケーションワーク 2 20. アイスブレイキング 1	レク企画書を完成させる アイスブレイクのレクプログラムを学習する		
11	21. アイスブレイキング 22. 支援実習 1 : 企画	アイスブレイクのレクプログラムを学習する レク支援を学生同士で実施するための企画書作成		
12	23. 支援実習 2 : 企画 24. 支援実習 3 : 準備	レク支援を学生同士で実施するための企画書作成 レク支援準備		
13	25. 支援実習 4 : 準備 26. 支援実習 5 : 実践	レク支援実践		
14	27. 支援実習 6 : 実践 28. 支援実習 7 : 実践	レク支援実践		
15	29. 支援実習 8 : 評価 30. まとめ	レク支援をしてみて、体験してみたの評価を話し合う		

回	テーマ	内容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材 レクリエーション支援の基礎 （財）日本レクリエーション協 会 適宜資料、プリント配布	総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを 熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程 I		介護福祉学科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	新田 奈生子
授業の概要				
・他の科目等で学んだ内容を統合して介護過程を展開できる基礎的な考え方、実践で展開できる能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・介護過程の意義を理解し、利用者の能力に合わせて個別に発展させ、その介護にどのような根拠があるか説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として23年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①介護過程とは 1. 生活の過程	介護過程の意義・目的を学ぶ		
2~ 3	2. 介護過程の意義 1	介護過程の展開を学ぶ		
4	②情報収集 4. アセスメントとは	アセスメントの思考の方法について学ぶ		
5	5. アセスメントと介護計画の関連性	アセスメントの(情報収集)の必要性を理解する		
6~ 8	6. 客観的情報 1	事例(演習)を使ったアセスメント体験をする		
9	③医学モデルと生活モデル 9. 医学モデルの視点	医学モデル視点でのアセスメント方法を学ぶ		
10	10. 生活モデルの視点	生活支援における介護過程の意義を理解する		
11~ 12	11. ICFの考え方における介護計画立案について 1	ICFの考え方を活用した情報収集方法を学ぶ		
13~ 14	13. 介護計画のロールプレイ 1	グループワークによるロールプレイを行う		
15	15. 計画の見直し	計画見直しについてグループワークを行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第9巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 6 0% 平常点: 4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程Ⅱ		介護福祉学科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	新田 奈生子
授業の概要				
・学生自身が知識や技術を統合し、ケアに活かすということの意味を理解し、個々の生活歴および現在の情報、利用者のニーズ等を勘案して介護計画を立案する。				
授業終了時の到達目標				
・ニーズの優先順位を考えることができ、そのニーズに応じた介護サービスや制度を選択でき、介護過程の展開ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①生活歴 1. 高齢者の現状理解、高齢者像の拡大	生活像からイメージを描き情報の立体化を学ぶ		
2~3	②情報分析 2. 事例演習1:情報分析	事例演習(情報の分析)		
4~7	4. 事例演習3:利用者ニーズの理解	事例演習(利用者のニーズの理解)		
8	③社会資源 8. 事例演習7:社会資源の理解	事例演習(社会資源の理解①)		
9	9. 事例演習8:社会資源の理解	事例演習(社会資源の理解②)		
10~11	④介護を支える制度 10. 事例演習9:福祉制度と地域福祉援助技術	制度の活用について学ぶ		
12	12. 事例演習11:家族、介護者を支える制度と社会資源の理解	事例演習(家族・介護者を支える制度の理解)		
13~14	⑤介護過程実践的展開 13. 介護実習Ⅱで実施する介護過程の展開の実施についての確認1	事例をもとにアセスメント、統合化を行う		
15~17	15. 介護過程の実践的展開の理解1	事例をもとに介護計画の立案を行う		
18~20	18. 介護過程の実践的展開:実習を終えて振り返り	実習を終えて振り返り、計画修正		
21	⑥情報の共有化 21. 情報の提供、共有、解釈	情報の共有化について理解する		
22~25	⑦アセスメントツール 22. アセスメントツールの解説	アセスメントツールを理解する		
26~28	⑧生活を継続させるための介護過程の展開 26. 生活環境の変化を見据えた介護計画1	テーマに合わせた事例についてグループで検討		
29~30	29. サービス提供計画の理解1	サービス提供計画について理解する。		

回	テーマ	内容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材 介護福祉士養成講座 第9巻 適宜資料、プリント配布	中央法規 総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを 熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：6 0% 平常点：4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護総合演習基礎		介護福祉学科/1年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	新田 奈生子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識、技術を実習を通じて実践するための具体的方法を学び、個々の不安等を解消し実習に臨めるようにする。また自己の実践内容を分析、考察し自己覚知へとつなげ、高い専門性と倫理性を養い、多様なニーズに適応できる能力を養う。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 介護施設の概要と利用者の生活像を整理、理解でき、介護福祉士としての役割を明確化できる。 他者理解に必要な基本的コミュニケーション方法やマナーを習得する。 実習のイメージに膨らませ、自身の目標や学習課題を言語化できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として23年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
配布プリントを確認しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①介護実習Ⅰ-①の意義、概要 1. 実習の意義と目的	実習の意義について学習する		
2	②コミュニケーション・マナー 2. プロセスレコードの書きかた	施設内でのマナー指導を行う プロセスレコードの書き方を学ぶ		
3	③施設理解 3. 訪問介護	訪問介護事業所について学習する		
4	4. 通所介護	通所介護系のサービスについて学ぶ		
5	5. 小規模多機能型施設	小規模多機能型施設について学ぶ		
6	6. グループホーム等	グループホームについて学ぶ		
7	④記録 7. 介護実習Ⅰ-①の振り返り：プロセスレコード	介護実習Ⅰ①について振り返る プロセスレコードの確認		
8	8. 介護実習Ⅰ-①の振り返り：観察結果	介護実習Ⅰ①について振り返る 観察した結果の確認		
9	9. 介護実習Ⅰ-①の振り返り：その他記録物の確認	介護実習Ⅰ①について振り返る ほかの記録物についての確認		
10	⑤介護活動の場と介護の特性 10. 多様なニーズと介護サービス	多様なニーズを理解する方法を学習する		
11	11. 様々な介護活動の場	様々な介護活動の場について学習する		
12	⑥記録 12. プロセスレコード	プロセスレコードの分析		
13	13. 観察記録	観察記録の分析、修正		
14	14. その他実習記録について	その他実習記録の修正		
15	⑦実習での考察 15. 次の実習に向けて	個人表の記入 実習Ⅱ①について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容	
	介護福祉士養成講座 第10巻 中央法規 適宜資料、プリント配布	課題・レポート	100.0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護総合演習 I		介護福祉学科/1年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	新田 奈生子
授業の概要				
・介護実習Ⅱ-①に関する記録の意義・方法、情報収集および観察技法、施設理解、基本的な介護技術の習得、チームケアについて理解し、円滑に介護実習Ⅱ-①が実践できるようにするとともに、実習後の振り返りを行ない介護福祉士として必要な能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・観察技法を習得し、利用者から情報収集でき、その情報の中から必要な情報を抽出することができる。またケアマネジメントシステムについての基本的な考え方を理解でき、実習を通じて学んだことについて、客観的に振り返り次の実習につなげることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として23年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを熟読しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①実習の意義、概要 1. 介護実習Ⅱ-①の意義と目的	介護実習Ⅱ①の意義、目的について学ぶ		
2	②観察 2. 観察の意義	アセスメントの意義について学ぶ		
3	3. 観察の方法	アセスメントの方法について学ぶ		
4	4. 情報収集 1	情報収集のポイントを説明する		
5	5. 情報分析シートの書きかた	事例に基づいて情報分析シートを記入する		
6	③介護技術 6. 清潔・入浴介助について 1	実習における入浴、清潔の介護について復習をする		
7	7. 清潔・入浴介助について 2	実習における入浴、清潔の介護について復習をする		
8	④記録 8. 介護実習Ⅱ-②の振り返り 1 : 情報分析シート	情報分析シートの確認、修正		
9	9. 介護実習Ⅱ-②の振り返り 2 : 事例分析	実際にあった事例を基に、介護のあり方について検討を行う		
10	10. 介護実習Ⅱ-②の振り返り 3 : 事例分析	実際にあった事例を基に、介護のあり方について検討を行う		
11	11. 介護実習Ⅱ-②の振り返り 4 : 事例分析	実際にあった事例を基に、介護のあり方について検討を行う		
12	⑤実習での考察 12. 介護技術について	上手くできなかった介護技術について、反省会を行う		
13	13. コミュニケーションについて	難しかったコミュニケーション場面について、グループワークを行う		
14	14. 利用者全体像の把握	情報分析シートをもとに、利用者の全体像をどこまで把握できているか、グループワークを行う		
15	15. チームケアについて	チームケアの重要性について学習する		

回	テーマ	内容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材 介護福祉士養成講座 第10巻 中央法規 適宜資料、プリント配布	課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護総合演習Ⅱ		介護福祉学科/1年	2025/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	新田 奈生子

授業の概要

- ・様々な対象者への介護を理解するとともに、利用者の潜在的ニーズを把握し、施設の機能および役割を理解し、自立支援に向けたチームケアの意義と役割を理解する。

授業終了時の到達目標

- ・介護実習Ⅱ-②での施設概要と利用者ニーズを整理・理解でき、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。
- ・介護実習Ⅱ-②での振り返りや、他者とのディスカッション、プロセスレコードを通して自己を客観的に振り返り、次の実習に向けた課題を明確化にできる。
- ・介護計画の立案ができる。

実務経験有無	実務経験内容
有	介護福祉士として23年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること

時間外に必要な学修

配布プリントを確認しておくこと

回	テーマ	内容
1	①実習の意義、概要 1. 介護実習Ⅱ-②の意義と目的	介護実習Ⅱ②の意義と目的について説明する
2	②ニーズの理解 2. 利用者の生活ニーズの理解 1	利用者ニーズを把握するためのポイントを説明し、事例を用いてニーズの理解をしてみよう。
3	3. 利用者の生活ニーズの理解 2	グループワークを行い、正しくニーズ理解ができているか確認する
4	4. 利用者の生活ニーズの整理	ニーズを最優順に整理する方法を学ぶ
5	5. 利用者の生活ニーズの分析	利用社にとって最も大切なニーズを、統合化の中から分析する
6	6. 介護計画の立案 1	生活ニーズが達成できる計画を立案する
7	7. 介護計画の立案 2	グループワークで、完成した介護計画の修正を図る
8	③倫理観 8. 介護福祉士の倫理観	介護福祉士としての倫理について学習する
9	④個別ケアについて 9. 介護実習Ⅱ-②の振り返り 1 : ニーズの把握	実習Ⅱ②の振り返りを行うレポート作成
10	10. 介護実習Ⅱ-②の振り返り 2 : 介護計画	介護計画をクラス内で分析し合い、修正する
11	11. 介護実習Ⅱ-②の振り返り 3 : 介護計画	介護計画をクラス内で分析し合い、修正する
12	⑤多様なサービスの理解 12. 様々なサービスの理解 1	介護施設で提供されている様々なサービスについて学習する
13	13. 様々なサービスの理解 2	介護施設で提供されている様々なサービスについて学習する
14	⑥まとめ 14. 事例検討 1	実習での事例を発表し、グループワークで話し合う

回	テ ー マ	内 容		
15	15. 事例検討 2	実習での事例を発表し、グループワークで話し合う		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	介護福祉士養成講座 第10巻 規 適宜資料、プリント配布	課題・レポート 中央法	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護実習 I		介護福祉学科/1年	2025/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	0.60単位(32時間)	必須	
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の人物像の把握および、日常生活や生活環境、疾病、障害等を理解するために、基本的なコミュニケーション技術を習得し、介護職としての基本的態度、技術を養う。 ・地域に根ざした施設として、地域とどのように関わっているのかを理解するために、施設の役割、概要を知る。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の人物像の理解。 ・利用者の疾病、障害の理解。 ・積極的にコミュニケーションを図ることができる。 ・計画的な実習を取り組むことができる。 ・提供される介護の必要性を理解できる。 ・基本的な記録物の作成ができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年、11年、13年、6年、看護師として23年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~15	備考欄参照			
16				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
事前に配布するマニュアル、プリント		実習・実技評価	100.0%	①介護実習 I - ①(1年前期:32時間) 比較的コミュニケーションの取りやすい利用者を中心に実習を行なうことで、コミュニケーション能力の向上を図り、利用者の人物像の把握、施設の基本的理解を実習を通じて学ぶ。 【実習施設】 グループホーム、通所介護、通所リハビリ、特定施設入居者生活介護、小規模多機能型施設 ・施設の基本的な理解を図るために、施設概要を作成する。

回	テーマ	内 容	
			<p>・人物像の理解を図るために、プロセスレコードを作成する。</p> <p>・利用者の全体像を理解するために、観察シートを記入する。</p>

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護実習Ⅱ		介護福祉学科/1年	2025/通年	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	100回	2.70単位(200時間)	必須	
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 施設の役割を理解するとともに、様々な利用者の生活像および生活歴を把握し、介護過程の展開を図るための情報を収集し、ニーズの抽出、アセスメント、計画、実施、評価が一連の介護実践の中で実施できるための基本的な能力を養う。 利用者の生活のあり方について個別に考察し、自立支援に基づいた個別ケアを提供するための基本的技術を学ぶ 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 施設の役割の理解。 利用者の生活像を理解するため情報収集ができる。 利用者ニーズを把握するための情報を分析できる。 福祉用具、福祉機器の知識を身につけ、実際に活用できる。 チームにおける各職種の役割について理解できる。 利用者個々の生活を考えた生活支援のあり方を理解することができる。 自立支援を考えた介護実践ができる。 一連の介護過程の展開ができる。 レクリエーションの実施。 ターミナルケアの理解を深める。 自己の介護観を高める。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年、11年、13年、23年、看護師として6年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~60	備考欄参照			
61				
62				
63				
64				
65				
66				
67				
68				
69				

回	テ ー マ	内 容
70		
71		
72		
73		
74		

回	テ ー マ	内 容
75		
76		
77		
78		
79		
80		
81		
82		
83		
84		
85		
86		
87		
88		
89		
90		
91		
92		
93		
94		

回	テ ー マ	内 容	
95			
96			
97			
98			
99			
100			
	教科書・教材	評価基準	評価率 その他
事前に配布するマニュアル、プリント		実習・実技評価	100.0% ①介護実習Ⅱー ①（1年後期：1 20時間） 施設の役割 が理解でき、利用 者の全体像を把握 し、個別ケアに必 要な情報収集を行 い、個別ニー ズ抽出のため の情報分析を行な うことで、人物像 を理解するため の、基本的コミュ ニケーション技 術および観察 技法について学 ぶ。また基本的な 記録の書き方にお いても、専門職と しての記録の意 義を理解し、 記録の重要性を実 習を通じて学ぶ。 【実習施設】 特別養護老 人ホーム、介護老 人保健施設、身体 障害者療護施設、 障害者支援施設、 救護施設 ・施設概 要の作成 ・利用者 の人物像を理解す るために、観察 シートに利用者情

回	テーマ	内容	
			<p>シートに利用者情報を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の情報を分析するために、情報分析シートに記入する。 ・基本的な介護技術の習得。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達と老化の理解 I		介護福祉学科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	菊本 暁人
授業の概要				
介護の現場に必要な人間の加齢に伴う身体の発達と新たな可能性の広がりという意味を含む老化について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
人間の発達と老化を理解して、ライフサイクルのイメージができるようになる。 老年期のころとからだの変化と老人福祉法の関係が理解でき、老人医療制度の現状についても理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師・助産師として6年の実務経験。 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	人間の成長と発達①	成長・発達の考え方を学ぶ		
2	人間の成長と発達②	成長・発達の原理・法則を学ぶ		
3	人間の成長と発達③	成長・発達に影響する要因について学ぶ		
4	人間の成長と発達④	人間の発達理論について学ぶ		
5	人間の成長と発達⑤	人間の発達段階と発達課題について学ぶ		
6	人間の成長と発達⑥	身体的機能の成長と発達について学ぶ		
7	人間の成長と発達⑦	心理的機能の発達について学ぶ		
8	人間の成長と発達⑧	社会的機能の発達について学ぶ		
9	老年期の発達と成熟①	老年期の定義について学ぶ		
10	老年期の発達と成熟②	老化についてその特徴や老化学説について学習する		
11	老年期の発達と成熟③	老年期の発達課題やセクショアリティについて学ぶ		
12	老年期の発達と成熟④	老年期を巡る今日的課題として、日本の高齢化や張る手すの説について学ぶ		
13	老年期の発達と成熟⑤	老化に伴うころとからだの変化と生活への影響について学ぶ		
14	老年期の発達と成熟⑥	老化に伴う社会的な変化と生活への影響についてまなぶ		
15	老年期の発達と成熟⑦	高齢者と健康(健康寿命にむけての健康、高齢者の症状・疾患の特徴について学ぶ)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テーマ	内	容
介護福祉士養成講座 第12巻 適宜資料、プリント配布	中央法規	総合評価	100.0% ①人間の成長と発達 発達の定義 発達段階 発達課題 ②老年期の発達と成熟 老年期の定義 (WHO・老人福祉法・老人保健法) 人格と尊厳 老いの価値 喪失体験 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達と老化の理解Ⅱ		介護福祉学科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	菊本 暁人

授業の概要

高齢者のかかりやすい疾患やそれに伴う障害を理解し、その人の生活のどのような事柄に留意すればよりよい利用者はの援助ができるか学ぶ。

授業終了時の到達目標

高齢者の疾患について知識を持ち、利用者と介護者の双方向の心理を理解したうえで、どのように対処すればよいか判断できるようになる。
保健・医療・福祉の専門職の一員として連携と協力ができるようになる。

実務経験有無

実務経験内容

有

看護師・助産師として6年の実務経験。
これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること

時間外に必要な学修

テキスト、配布プリントを復習しておくこと

回	テーマ	内容
1	老化が及ぼす心理的影響	老化による心理や行動を理解するための視点を学ぶ
2	老化が及ぼす心理的影響②	社会的環境の変化と心理的影響について学ぶ
3	老いの価値観・受容	主観的幸福感、QOL・生きがいの視点について学ぶ
4	老いの価値観・受容②	動機付け(欲求)に基づく理解と支援について学ぶ
5	高齢者のこころの問題と精神障害	精神的健康、認知症について学習する
6	高齢者のこころの問題と精神障害②	気分障害やせん妄、老年期の統合失調症について学ぶ
7	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響	老化に伴う外見上の変化と日常生活への影響、免疫機能の変化と日常生活へのえいきょう、感覚機能の変化と日常生活への影響について学ぶ
8	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響②	咀嚼機能・消化機能の変化、循環器の機能の変化、呼吸器の機能の変化について学ぶ
9	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響③	筋、骨、関節の機能の変化、泌尿器・生殖機能の変化、泌尿器・生殖機能の変化、体温維持機能の変化について学ぶ
10	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響	記憶機能の変化(感覚記憶、短期記憶、長期記憶)、認知機能の変化について学ぶ
11	高齢者の症状・疾患の特徴	慢性であり、複数の疾患を持ち、非定型的な症状があることについて理解する。
12	高齢者に多い症状・訴えとその留意点	痛みやめまい、複数の疾患を持ち、非定型的な症状があることについて理解する
13	高齢者に多い病気とその留意点	生活習慣病、骨関節系の病気、感覚器の病気、などについて学ぶ
14	高齢者に多い病気とその留意点②	内科系疾患、精神の病気などについて学ぶ
15	保健医療職との連携	保健医療職とのチームケアの必要性和保健医療職との連携のポイントについて学ぶ

回	テーマ	内容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材 介護福祉士養成講座 第12巻 中央法規 適宜資料、プリント配布	総合評価	100.0%	<p>①老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 老化に伴う心身の変化の特徴（防衛反応の変化・回復力の変化・適応力の変化等） 老化に伴う心身機能の変化と日常生活の影響（身体的・知的、認知・精神的等） 高齢者の心理（老化の受容・役割の喪失・障害の受容・別れ・経済的不安等）</p> <p>②高齢者と健康 高齢者疾病と生活上の留意点（病気の症状の特徴・老年症候群・介護予防・からだの不調の訴え等） 保健医療職との連携</p> <p>【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%</p>

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
認知症の理解 I		介護福祉学科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	金井 太佑
授業の概要				
認知症に関する基礎知識を習得し、意思表示が困難になりやすいという認知症の特性を理解する。				
授業終了時の到達目標				
認知症について正しく理解し、行動障害についてもその背景を理解することで具体的な対応策につなげて考えられるようになる。また若年期に発症した認知症についても理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として13年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内 容		
1	認知症を取り巻く状況	認知症を取り巻く状況について学ぶ		
2	認知症ケアの歴史	認知症ケアの歴史について学ぶ		
3	認知症ケアの歴史②	認知症ケアの歴について学ぶ		
4	認知症ケアの概念	認知症の概念を学ぶ。		
5	認知症高齢者の現状と今後	認知症高齢者の現状と今後について様々な資料から学んでいく		
6	認知症に関する行政の方針と施策	認知症に関する行政の方針と施策について学ぶ		
7	医学的側面から見た認知症の基礎	医学的側面からみた認知症の基礎を学習する		
8	認知症による障害	認知症による障害を事例を通して学ぶ		
9	認知症による障害②	認知症による障害を事例を通して学ぶ		
10	認知症と間違われやすい症状	認知症と間違われやすい症状を具体的事例を通して学習する。		
11	認知症の原因となる主な病気の症状	認知症の原因となる主な病気の症状について学ぶ		
12	認知症の原因となる主な病気の症状②	認知症の原因となる主な病気の症状について学ぶ		
13	若年性認知症	若年性認知症について症状、事例を交えて学ぶ		
14	認知症検査、治療の実践	認知症検査、治療について学習する		
15	認知症検査、治療の実践②	認知症検査治療の実践について学習する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テーマ	内容	内容
介護福祉士養成講座 第13巻 適宜資料、プリント配布	中央法規 総合評価		100.0% ①認知症を取り巻く状況 認知症ケアの歴史 認知症ケアの概念 認知症高齢者の現状と今後 認知症に関する行政の方針と施策 ②医学的側面からみた認知症の基礎 認知症による障害 認知症と間違われやすい症状 認知症の原因となる主な病気の症状 若年性認知症 認知症検査、治療の実践 【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
認知症の理解Ⅱ		介護福祉学科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	金井 太佑
授業の概要				
認知症に対する基礎理解をふまえたうえで、認知症の人やその家族への支援方法、地域連携について理解できる。				
授業終了時の到達目標				
認知症の人の特徴的な心理と行動・日常生活への影響について理解でき、支える家族の支援、サポート体制について考えられるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として13年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内 容		
1	認知症を伴うところとからだの変化と日常生活	中核症状について学ぶ		
2	認知症の人の特徴的な心理・行動	BPSDについて学ぶ		
3	認知症に伴う機能の変化と日常生活の影響	認知症の人の介護過程について学習する		
4	認知症に伴う機能の変化と日常生活の影響②	認知症の進行に応じた介護について学ぶ		
5	認知症に伴う機能の変化と日常生活の影響③	認知機能の障害が生活に及ぼす影響について理解する		
6	多職種協働による連携と協議	医療、福祉の連携が認知症患者・家族の孤立を防ぐことを学ぶ		
7	社会的問題	認知症患者が増加することが社会に与える影響について学習する		
8	地域におけるサポート体系	地域を基盤としたサポート体制とその実際について学ぶ		
9	家族への支援	家族が背負う4つの苦しみについて学ぶ		
10	認知症が及ぼす家族との関係	休まない家族へのかかわりについて学ぶ		
11	家族の心理・行動の特徴	家族へのレスパイトケア、エンパワメントについて学ぶ		
12	家族支援	家族会と介護教室について学習する		
13	認知症の人に対する介護	認知症の人へのかかわりの基本について学ぶ		
14	認知症の人に対する介護②	認知症への気づきについて学習する		
15	認知症の人に対する介護③	認知症の人の介護過程、進行に応じた介護について学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テーマ	内	容
介護福祉士養成講座 第13巻 適宜資料、プリント配布	中央法規	総合評価	100.0% ①認知症を伴うこころとからだの変化と日常生活 認知症の人の特徴的な心理・行動 認知症に伴う機能の変化と日常生活の影響 ②多職種協働による連携と協議 社会的問題 地域におけるサポート体系 ③家族への支援 認知症が及ぼす家族との関係 家族の心理・行動の特徴 家族支援 【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害の理解 I		介護福祉学科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	自立ケアシステム
授業の概要				
障害のある人の基礎知識をふまえて、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。				
授業終了時の到達目標				
障害のある人の理解が深まり、障害に対しての自分なりの見解がしっかりと持て、障害者の気持ちを踏まえた介護実践が実現できるようになる。 チームワークの意義を理解し、協働について考えることができるようになる。また、家族への支援についても考えることができるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		自立ケアシステム香川職員であり、これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	障害の概念について学習する		
2	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	障害福祉の基本的理念を学習する		
3	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	障害のある人に対する介護基本的視点について学ぶ		
4	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	個別支援のあり方について学習 医学モデルと生活モデル		
5	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	エンパワメントについて学ぶ		
6	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	生活ニーズの把握の重要性について		
7	障害に伴う機能の変化と日常生活の影響	家族支援の視点について学習する		
8	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	障害の受容についてレスパイトサービスについて		
9	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	家族支援のポイントについて学習し、適切な家族支援方法を知る		
10	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	介護負担の軽減方法について学習する		
11	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	障害者が地域で生活するための、問題点、課題を把握し、地域でのアプローチ方法を考える		
12	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	チームアプローチについて学ぶ 他職種の役割について		
13	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	行政、関係機関との連携について学習する		
14	地域の連携や障害を持つ人の家族の心理	インフォーマルサポートネットワークについて		
15	まとめ	障害への支援のあり方をまとめる		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テーマ	内	容
介護福祉士養成講座 第14巻 適宜資料、プリント配布	中央法規	総合評価	100.0% ①障害に伴う機能 の変化と日常生活 の影響 心身障害のケー スを想定した擬似 体験 介護福祉士とし ての視点について グループワーク・ まとめ ②地域の連携や障 害をもつ人の家族 の心理 障害者自立支援 法と地域における サポート体制 家族への支援に ついて 【事前準備】 事前にテキストを 熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：6 0% 平常点4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こころとからだのしくみⅠ こころ		介護福祉学科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西原 和代
授業の概要				
介護技術の根拠となるこころのしくみを介護実践との関連の中で理解する。 介護サービス提供における安全への留意点をこころのしくみから理解する。				
授業終了時の到達目標				
人間の基本的欲求を理解したうえで、尊厳と結びつけて考えることができる。それをふまえて、介護実践と適応の関係を説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師・助産師として23年の実務経験。 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内 容		
1	人間の基本的欲求の理解と尊厳	基本的欲求について		
2	人間の基本的欲求の理解と尊厳②	社会的欲求について学ぶ		
3	人間の基本的欲求の理解と尊厳③	自己実現について理解する		
4	人間の基本的欲求の理解と尊厳④	欲求階層説、具体例で考える欲求階層説について学習する		
5	自己実現	自己概念に影響する要因について学ぶ		
6	自己実現②	自己への意欲と自己概念について学ぶ		
7	自己実現③	自己実現と尊厳、生きがいについて学ぶ		
8	自己実現④	自己実現に必要なものについて学ぶ		
9	自己実現⑤	②、③、④のまとめ		
10	こころのしくみに関する基礎理念①	こころとは何かについて学ぶ		
11	こころのしくみに関する基礎理念②	脳のしくみについて学ぶ		
12	こころのしくみに関する基礎理念③	学習・記憶・思考のしくみについて学ぶ		
13	こころのしくみに関する基礎理念④	感情のしくみ、認知のしくみについて学ぶ		
14	こころのしくみに関する基礎理念⑤	意欲・動機づけのしくみについて学ぶ		
15	適応のしくみ	適応のしくみについて学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テーマ	内	容
介護福祉士養成講座 第11巻 適宜資料、プリント配布	中央法規	総合評価	100.0% ①人間の基本的欲求の理解と尊厳 人間の基本的欲求 社会的欲求 尊厳 ②自己実現 自己概念と尊厳 自己概念に影響する要因 自立への意欲と自己実現 生きがい ③こころのしくみに関する基礎理念 こころのしくみに関する諸理論 思考・学習・記憶のしくみ 感情・意欲・動機づけのしくみ ④適応のしくみ 介護実践と適応 【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：6 0% 平常点：4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こころとからだのしくみ I からだ		介護福祉学科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	菊本 暁人
授業の概要				
介護技術の根拠となる人体の構造・機能を介護実践との関係の中で理解する。				
授業終了時の到達目標				
バイタルサイン・恒常性について理解でき、観察・チェックできる。また、ボディメカニクスを含む人体各部の理解ができ、介護実践の最も基本的な根拠が述べられる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師・助産師として6年の実務経験。 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	バイタルサイン・恒常性①	健康状態を知る項目について学ぶ		
2	バイタルサイン・恒常性②	バイタルサインの測定と値の見方について学ぶ		
3	バイタルサイン・恒常性③	意欲、顔貌、顔色、食事、行動の観察法について学ぶ		
4	神経系①	自律神経系について学ぶ		
5	神経系②	中枢神経系、末梢神経系について学ぶ		
6	心血管系	循環器系について学ぶ		
7	呼吸器系	外呼吸、内呼吸について学ぶ		
8	消化器系	消化管と消化腺について学ぶ		
9	代謝系	内分泌系および免疫系について学ぶ		
10	尿路性器系	腎臓と尿路について学ぶ		
11	皮膚及び関連部位	皮膚の役割と皮膚感覚について学ぶ		
12	運動に関連した構造と名称	骨、筋肉の構造とその働きについて学ぶ		
13	関節可動域	関節の運動と関節可動域、関節の拘縮その予防、関節の運動と筋肉の働きについて学ぶ		
14	ボディメカニクス	神経系・骨格系・関節系・筋系とのかかわりを学ぶ		
15	からだの仕組み基礎まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テーマ	内	容
介護福祉士養成講座 第11巻 適宜資料、プリント配布	中央法規	総合評価	100.0% ①バイタルサイン・恒常性 バイタルサイン・恒常性 ②人体の構造 神経系・心血管系・呼吸器系・消化器系・代謝系・尿路性器系・皮膚及び関連部位 運動に関連した構造と名称 関節可動域 ③ボディメカニクス ④からだのしくみ 基礎まとめ 【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こころとからだのしくみⅡ		介護福祉学科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	菊本 暁人

授業の概要

基礎知識を基に利用者の身支度や移動・食事等の生活を支える介護実践との関係を学ぶ。

身支度に関連したこころとからだのしくみ

移動に関連したこころとからだのしくみ

食事に関連したこころとからだのしくみ

授業終了時の到達目標

身支度、移動、食事の生理的・心理的意味を理解し、介護実践に結びつけた援助の方法を考えることができるようになる。

実務経験有無 実務経験内容

有

看護師・助産師として6年の実務経験。
これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること

時間外に必要な学修

テキスト、配布プリントを復習しておくこと

回	テーマ	内容
1	①身支度に関連したこころとからだのしくみ	なぜ身支度を整えるのか、その必要性や身支度に関連したこころのしくみを学ぶ
2	身支度に関連したこころとからだの基礎知識	なぜ身支度を整えるのか、その必要性や身支度に関連したからだのしくみを学ぶ
3	口腔のしくみ	口腔の構造、口腔の観察について学ぶ
4	口腔衛生	口腔の清潔のしくみについて学ぶ
5	生活場面でのこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	身支度という日常生活の中で気づくことのできる、こころとからだの変化や機能低下の予兆のための観察ポイントを学習し、報告の必要性を学ぶ
6	②移動に関連したこころとからだのしくみ	人が移動する必要性や移動の効果について学ぶ。移動するためのからだのしくみを理解する。
7	機能低下の障害が及ぼす移動への影響	移動が不自由になる要因を学ぶ、移動が不自由になると生じる状態について学ぶ
8	生活場面でのこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	日常生活の中での観察のポイントを学ぶ。介護すべきか、訓練するべきかの判断のポイントを学ぶ
9	③食事に関連したこころとからだのしくみ	人間関係に必要な不可欠な栄養素とはたらきを学ぶ。摂食・嚥下(摂り込む、飲み込む)にかかわる解剖としくみを理解する。代償的な栄養摂取法を学ぶ。食事の種類を学ぶ
10	機能低下の障害が及ぼす食事への影響	精神機能低下の具体的内容を正しく理解する。身体的機能低下の具体的内容を正しく理解する。食事動作に影響する要因の内容を学ぶ。漸進的な機能低下の内容を学ぶ
11	生活場面でのこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	主な身体機能について網羅的に正しく理解する。緊急性を伴う異常の具体的内容をひとつずつ正しく理解する。医療職との連携のポイントを学ぶ
12	精神機能の低下が食事に及ぼす影響	主な身体機能について網羅的に正しく理解する。緊急性を伴う異常の具体的内容をひとつずつ正しく理解する。
13	身体機能低下が食事及ぼす影響	緊急性を伴う異常の具体的内容をひとつずつ正しく理解知る。主な症状について網羅的に正しく理解する

回	テーマ	内 容		
14	食事での観察ポイント	食欲不振、脱水症状、低栄養、嚥下障害で気づく観察のポイント学ぶ		
15	食事での医療職との連携のポイント	チーム医療促進のために必要な要素は、安全で確実なケアの遂行であることを学ぶ。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第11巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	<p>①身支度に関連したところからだのしくみ 身支度に関連したところからだの基礎知識 口腔のしくみ 口腔衛生 生活場面でのところからだの変化の気づきと医療職との連携</p> <p>②移動に関連したところからだのしくみ 移動に関連したところからだのしくみ 機能低下の障害が及ぼす移動への影響 生活場面でのところからだの変化の気づきと医療職との連携</p> <p>③食事に関連したところからだのしくみ 食事に関連したところからだのしくみ 機能低下の障害が及ぼす食事への影響 生活場面でのところからだの変化の気づきと医療職との連携</p> <p>【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと</p> <p>【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%</p>

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会保障制度		介護福祉学科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	3単位(30時間)	必須	山本 元
授業の概要				
高齢者や障害のある状態の人を含め、すべての人間が人間として生きることを保護されていることを理解する。				
授業終了時の到達目標				
様々な社会保障制度のしくみを理解し、社会全体で支えることの意義について自分の考えを表明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントの復習をしておくこと				
回	テーマ	内容		
1	社会保障の概念	社会保障のしくみ、概念の理解		
2	社会保障の役割、意義、理念、対象	社会保障の役割、意義、理念、対象などについて学習する		
3	憲法13条、憲法25条	生存権、幸福追求権について学習する		
4	社会保障制度の今後	社会保障制度の問題点、今後の社会保障制度の在り方について考える		
5~6	要介護者数の推移、介護保険制度の目的	介護保険法第1条について学習する 介護保険制度創設の背景、要介護者数の推移について学ぶ		
7~10	介護保険制度の全体像	介護保険制度の全体像について学ぶ		
11~12	保険者と被保険者	保険者の役割、被保険者の要件について学習する		
13~14	介護サービス利用までの流れ	申請から認定までの流れを学ぶ		
15	介護サービスの種類	居宅、施設サービスについて学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉養成講座 第2巻 中央法規出版 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 テキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 60% 平常点: 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コンピュータリテラシー		介護福祉学科/2年	2025/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1.50単位(30時間)	必須	金井 太佑
授業の概要				
情報社会の本質を理解し、パーソナルコンピュータを中心とした情報機器の使用方法を学び、日常的に利用できるようにする。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ パーソナルコンピュータを中心とした情報機器の使用に慣れ、資料作成等に利用できるようになる。 ・ インターネットを使った情報検索が手早くできるようになる。 ・ メールを始めとして、情報通信の仕方をマスターする。 ・ Word、Excel、PowerPointの基本機能を理解し、基本的な操作をマスターする。 				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	①情報化社会について 1. 情報化社会について	情報化社会について学習する		
2	2. Windows 入門	Windowsについて基礎的な使用法について学ぶ		
3	②インターネットについて	情報検索、メール技術の基礎的方法について学習する		
4	③Word Word 1	Wordの基本操作を学ぶ		
5	Word 2	例にそって文章を作成する		
6	Word 3	例にそって文章を作成する		
7	Word 4	例にそって文章を作成する		
8	Word 5	例にそって文章を作成する		
9	④Excel Excel 1	例にそってシートを作成する		
10	Excel 2	例にそってシートを作成する		
11	Excel 3	例にそってシートを作成する		
12	Excel 4	例にそってシートを作成する		
13	Excel 5	例にそってシートを作成する		
14	⑤PowerPoint PowerPoint1	PowerPointの操作方法について演習を通して理解する		
15	PowerPoint2	PowerPointの作成方法、デザイン変更について理解		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テーマ	内容	
	適宜資料、プリントを配布	課題・レポート	100.0% 【事前準備】 事前にテキストを 熟読しておくこ と。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護の基本Ⅲ		介護福祉学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	金井 太佑
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。 ・介護従事者の心身の健康管理について理解する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・安全の概念を予防・自立の点から考察し、安全対策のあり方を理解し説明でき、個別に対応ができるようになる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として13年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①介護における安全の確保 1. 観察	リスクマネジメントにおける観察の重要性について学ぶ		
2	2. 正確な技術	安全を確保する上での介護技術の重要性を説明する		
3	3. 予測、分析	グループワークを行い、安全管理をする上での予測、分析方法を学習する。		
4	②事故防止、安全対策 4. 安全対策	具体的な安全対策について学習する		
5	5. 転倒、転落、骨折予防	転倒、転落の原因、対策について学習する		
6	6. 利用者の生活の安全、防火・防災対策	防火、防災管理について学ぶ		
7	③感染症対策 7. 感染予防の意義と介護、感染予防の基礎知識と技術	感染予防の意義、基礎知識、技術を学習する		
8	8. 感染管理、衛生管理	感染管理、衛生管理の重要性を管理する		
9	④介護従事者の心身の健康管理 9. 心の健康管理 1	介護従事者のストレス、こころの健康管理について学習する		
10	10. 心の健康管理 2	介護従事者のストレス、こころの健康管理について学習する。		
11	11. 心の健康管理 3	介護従事者のストレス、こころの健康管理について学習する		
12	12. 身体の健康管理 1	腰痛および身体の健康管理、維持、教科の方法について学習する		
13	13. 身体の健康管理 2	腰痛および身体の健康管理、維持、教科の方法について学習する		
14	14. 労働安全	労働における安全管理の制度、対応方法などを学習する		
15	⑤リスクマネジメント 15. まとめ	介護における安全管理の重要性をグループワークで、理解を深める。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テーマ	内容	
介護福祉士養成講座 法規 適宜資料、プリント配布	第3巻 第4巻 中央	総合評価	100.0% 【事前準備】 事前にテキストを 熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：6 0% 平常点：4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション技術Ⅱ		介護福祉学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	金井 太佑
授業の概要				
・他職種間とのコミュニケーション技法を学び、習得する				
授業終了時の到達目標				
・介護におけるチームのコミュニケーションに必要な記録や報告等について学び、その技術を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として13年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	チームのコミュニケーション①	チームのコミュニケーションとは、 チームのコミュニケーションの方法		
2	チームのコミュニケーション②	【演習】チームのコミュニケーションの必要性 【演習】チームへの報告		
3	記録①	介護における記録の意義と目的、介護における記録の種類		
4	記録②	記録の書き方と留意点、記録の活用		
5	記録③	情報の保護と管理		
6	記録④	【演習】介護記録の書き方 【演習】介護記録等の作成		
7	記録⑤	ICTを活用した記録の意義と留意点		
8	報告・連絡・相談①	報告・連絡・相談の意義と目的、 報告・連絡・相談の具体的な方法と留意点		
9	報告・連絡・相談②	【演習】チームのコミュニケーションにおける報告・連絡・相談の必要性		
10	報告・連絡・相談③	【演習】報告・連絡・相談のための情報収集		
11	会議①	会議、会議の種類と運用		
12	会議②	【演習】チームのコミュニケーションにおける会議の必要性		
13	会議③	【演習】職場内ミーティングの体験		
14	まとめ①	【演習】2年間のコミュニケーション技術をふり返る		
15	まとめ②、試験対策	まとめ①の続き、試験対策		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テーマ	内容	
	介護福祉士養成講座 第5巻 中央法規 適宜資料、プリント配布	総合評価	100.0% 【事前準備】 事前にテキストを 熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：6 0% 平常点：4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ		介護福祉学科/2年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	山本 元
授業の概要				
・利用者がその人らしい生活を営むために必要な、介護技術を学び、個別に対応できる能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズを理解し、優先順位を考えることができる。 ・ICFの視点にもとづいて、介護技術を活用できる。 ・自立に向けた介護技術を提供できる。 ・他職種の役割を理解できる。 ・ターミナルケアについて考えることができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として6年の実務経験あり これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布したプリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①入浴、清潔保持の介護 1. 入浴の意義と目的、アセスメント	入浴の意義と目的、アセスメントについて学ぶ		
2	2. 爽快感、安楽を与える介護	爽快感、安楽を与える介護について学ぶ		
3	3. 安全で快適な入浴方法	安全で快適な入浴方法について学ぶ		
4	4. 利用者の状態、状況に応じた介助の留意点1	利用者の状態、状況に応じた介助の留意点について学ぶ		
5	5. 利用者の状態、状況に応じた介助の留意点2	利用者の状態、状況に応じた介助の留意点について学ぶ		
6	6. 他職種の役割と協働	他職種の役割と協働について学ぶ		
7	②睡眠の介護 7. 睡眠の意義と目的、アセスメント	睡眠の意義と目的、アセスメントについて学ぶ		
8	8. 安眠のための介護	安眠のための介護について学ぶ		
9	9. 安眠を促す介助の方法	安眠を促す介助の方法について学ぶ		
10	10. 利用者の状態、状況に応じた介助の留意点	利用者の状態、状況に応じた介助の留意点について学ぶ		
11	11. 他の職種の役割と協働	他職種の役割と協働について学ぶ		
12	③終末期の介護 12. 終末期における介護の工夫	終末期における介護の工夫について学ぶ		
13	13. アセスメント	アセスメントについて学ぶ		
14	14. 医療との連携、終末期、臨終期の介護	医療との連携、終末期、臨終期の介護について学ぶ		

回	テ ー マ	内 容		
15	15. グリーフケア	グリーフケアについて学ぶ		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	介護福祉士養成講座 第6巻 第7巻 第8巻 規 適宜資料、プリント配布	総合評価 中央法	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを 熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：6 0% 平常点：4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ（居住環境の整備）		介護福祉学科/2年	2025/後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	新田 奈生子
授業の概要				
・自立に向けた居住環境の整備を学び、対象となる人の生活ニーズの把握、具体化していく方法を習得する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活状況の理解、ニーズの優先順位の把握ができる。 ・生活空間の構成要素、意義、目的を理解できる。 ・ICFの視点に基づいて、居住環境を生活の流れの中で理解できる。 ・環境整備の具体的な進め方を知る。 ・他職種との連携のあり方を示すことができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として23年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①居住環境の整備の意義と目的 1. 居住環境の整備の意義と目的	居住環境の整備の意義と目的について学ぶ		
2	2. 自立に向けた居住環境の意義	人が安心して快適に暮らすために必要な整備とは何か、必要性を理解する		
3	②生活空間と介護 3. 居場所とアイデンティティ	高齢者や障害のある人の住まいの多様性について学ぶ		
4	4. 生活の場、すまい、住み慣れた地域での生活の保障	生活の場の考え方を理解する		
5	③居住環境のアセスメント 5. ICFの視点にもとづいた居住環境のアセスメント1	ICFと居住環境の整備におけるアセスメントの視点を学ぶ		
6	6. ICFの視点にもとづいた居住環境のアセスメント2	ICFと居住環境の整備におけるアセスメントの視点を学ぶ		
7	7. ICFの視点にもとづいた居住環境のアセスメント3	ICFと居住環境の整備におけるアセスメントの視点を学ぶ		
8	④安全で心地よい生活の場づくり 8. 安全に生活するための工夫	安全に生活するための工夫について学ぶ		
9	9. 安全に生活するための工夫	安全に生活するための工夫について学ぶ		
10	10. 住宅改修	住宅改修について学ぶ		
11	11. バリアフリー	バリアフリーについて学ぶ		
12	12. ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインについて学ぶ		
13	⑤施設等での工夫、留意点 13. ユニットケア	ユニットケアについて学ぶ		
14	14. 個室化、なじみの生活空間	個室化、なじみの生活空間について学ぶ		

回	テーマ	内 容		
15	⑥他職種との連携 15. 他の職種との連携	他職種との連携について学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第6巻 第7巻 第8巻 規 適宜資料、プリント配布		総合評価 中央法	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを 熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：6 0% 平常点：4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅲ (被服)		介護福祉学科/2年	2025/後期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	白川 江美
授業の概要				
・家庭生活の被服生活に関する実習を行い、具体的な家庭生活支援能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・家庭経営(衣)に関する様々な技能実習を通して、技能の習得および、様々な利用者に応じた家庭生活支援能力を養い実践できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	①被服素材の理解 1. 被服素材の特徴及び鑑別の実験 1	被服素材の特徴を素材モデルを使用し学習するとともに、実験を通じて素材の特性を知る		
2	2. 被服素材の特徴及び鑑別の実験 2	被服素材の特徴を素材モデルを使用し学習するとともに、実験を通じて素材の特性を知る		
3	②被服実習 3. 被服実習 1 : 基本的技術の習得	被服実習で必要な基本技術を学ぶ		
4~10	4. 被服実習 2 : 衣類のリフォーム	衣類のリフォームを行う		
11~14	③デザイン 11. 老人・障害者のための被服デザイン 1	高齢者に喜ばれるデザインを考える		
15	④まとめ 15. 作品発表	作品を発表し、プレゼンテーションを行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリント配布 介護福祉士養成講座 第6巻 中央法規出版		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読し、準備物の用意をしておくこと 【採点内訳】 作品評価：80% 平常点：20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅲ (調理)		介護福祉学科/2年	2025/後期	実習
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	渡辺 宏子
授業の概要				
・家庭生活の経営と管理、栄養、調理に関する実習を行い、具体的な家庭生活支援能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・家庭経営 (食) に関する様々な技能実習を通して、基本的な技能を修得し、調理に関する生活支援ができるようになる。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	①家庭生活の経営と管理 1. 家庭生活とは	家庭生活の意義について学ぶ		
2	2. 経営と管理	家庭生活における経営と管理について学習する		
3	②栄養と調理 3. 献立作成と栄養価計算	献立作成方法と、栄養価の計算方法を学習する		
4	4. 調理実習に向けて	調理実習について		
5	調理実習に向けて	調理実習について		
6~ 15	調理実習	調理実習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリント配布		課題・レポート	30.0%	【事前準備】 事前にプリントを 熟読しておくこと
		実習・実技評価	70.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅲ（住居）		介護福祉学科/2年	2025/後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	堀内有
授業の概要				
・家庭生活の経営と管理、住生活に関する実習を行い、具体的な家庭生活支援能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
・高齢者や障害者に対して安全に生活できる環境を考えることができ、プレゼンテーションできる。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	①バリアフリーおよび住生活 1. 住生活の理解	バリアフリーのメリット、デメリットを学ぶことで、安全な住生活を学ぶ		
2	2. 室内環境の整備	快適な室内環境の特徴を学ぶ		
3	3. 住居管理、防災	安全に暮らすための住居を学ぶ		
4	4. 老人、障害者に適した居宅	介護が必要な方の住居を学習する		
5~ 15	②住居実習 5. ノーマライゼーションの理念に適した住居	住居模型を作成し、介護が必要な方の住まいを考える		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 作品評価：80% 平常点：20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅳ 介護予防とレクリエーションⅡ		介護福祉学科/2年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	堀内 有美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション活動計画の作成および実施方法を学ぶ。 ・レクリエーション活動援助者の役割を理解する。 ・レクリエーション活動の実践を行なう。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション計画を立案でき、自らレク支援を実践できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として6年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
課題、配布プリントをしておくこと				
回	テーマ	内容		
1~2	①レクリエーション実技 1. 福祉レクリエーション1	実際に服しレクプログラムを体験し、レクリエーション指導者としてのスキルを向上させる		
3~4	3. コミュニケーションワーク1	司会進行のスキルを身につける		
5~6	5. アイスブレイキング1	アイスブレイクを実際に学生に対して支援する		
7~8	7. 支援実習1: 企画	クラス内でレク支援を行うための企画を考える		
9~10	9. 支援実習3: 準備	実習の際に行うレクプログラムの準備を行う		
11~13	11. 支援実習5: 実践	クラス内でレク支援を行う		
14	14. 支援実習8: 評価	実践してみたの評価をグループワークで話し合う		
15	15. まとめ	レク支援のポイント、支援者の心構え、注意点などを解説する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
レクリエーション支援の基礎 (財)日本レクリエーション協会 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト: 60% 平常点: 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程Ⅲ		介護福祉学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	堀内 有美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・学生自身が知識や技術を統合し、ケアに活かすということの意味を理解し、個々の生活歴および現在の情報、利用者のニーズ等を勘案して介護計画を立案し、ケアマネジメントシステムの流れ、各段階ごとの支援者の役割を理解する。 ・実習での経験をふまえて、専門職として実践的な「介護過程の展開」とは何かを理解し、必要なスキルを身につけ、他職種との連携における介護福祉士の役割を自覚し、自分自身の介護観を発展させる。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程Ⅰ、Ⅱで習得した内容を理解し、その計画の評価が正当なものかどうか判断できる。 ・インフォームドコンセントが理解でき、実行できる。 ・アセスメントツールがどのような視点で作られているか理解し、適切にアセスメントツールを活用できる。 ・ターミナルケアにおける計画を考えることができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①障害者の理解 1. 障害者の生活背景の理解	障害者の生活背景について学ぶ		
2	2. 障害者制度の理解	障害者制度について学ぶ		
3~4	3. 障害者の生活の理解 1	事例検討：障害者の生活を考える		
5	5. 障害の受容からエンパワメント	エンパワメントの考え方について学ぶ		
6	6. 障害者の自立生活を支える社会資源	障害者の自立生活を支える社会資源について学ぶ		
7~8	②介護過程の実際 7. 介護過程の実際1：体験談	事例を用いて介護過程を理解する		
9~10	9. 介護過程の実際3：事例演習（評価方法について）	事例演習：評価方法について学ぶ		
11	11. 介護過程の実際5：スーパービジョン	サービス担当者会議の意義・目的を学ぶ		
12	12. 介護過程の実際6：サービス担当者会議	サービス担当者会議の意義・目的を学ぶ		
13~17	13. 介護過程の実際7：チームアプローチ	チームアプローチにおける介護職の役割を学ぶ		
18	18. カンファレンスの重要性の理解	カンファレンスにおける介護職の役割を学ぶ		
19~20	19. インフォームドコンセント 1	尊厳を守るケアの観点からインフォームドコンセントの必要性を学ぶ		
21~22	④アセスメントツールの活用 21. アセスメントツールの分析 1	ICFのアセスメントツールによる情報収集の方法を学ぶ		

回	テ ー マ	内 容
23～ 25	23. アセスメントツールの開発 1	グループワークによるアセスメントツールの開発
26～ 28	⑤終末期 26. 終末期の介護過程 1	ターミナルケアにおける介護過程を学ぶ

回	テ ー マ	内 容		
29～ 30	⑥まとめ 29. 介護過程と介護観について1	介護過程と介護観について学ぶ		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	介護福祉士養成講座 第9巻 規 適宜資料、プリント配布	課題・レポート 中央法	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを 熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：6 0% 平常点：4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護総合演習Ⅲ		介護福祉学科/2年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	堀内 有美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の地域での役割と機能を理解し、利用者および家族のニーズを的確に把握し、介護過程を展開できる能力を養う。 ・利用者および家族のニーズに対する介護福祉士の役割、その他職種との協働の意義と役割を理解できる。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・実習Ⅱ-③において適切な介護過程を展開できる。 ・実習Ⅰ-②において地域に根ざした施設が理解できる。 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	介護福祉士として11年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
配布プリントを確認しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①実習の意義、役割 1. 介護実習Ⅱ-③の意義、目的	介護実習Ⅱ③の意義、目的を説明する		
2	②介護過程の展開 2. ニーズの抽出	事例を用いてニーズ抽出を行い、統合化を行う		
3	3. 介護計画の立案	事例を用いた介護計画を立案する		
4	4. 実施	実施方法について説明を行い、具体的な実施方法を検討する		
5	5. モニタリング	モニタリングの留意点を解説する		
6	6. 実習Ⅱ-③の振り返り	実習Ⅱ③のレポート作成		
7	③実習の意義、役割 7. 実習Ⅰ-②の意義、目的	実習Ⅰ②の意義、目的の説明		
8	④社会資源 8. 実習Ⅰ-②の振り返り	実習Ⅰ2のレポート作成		
9	9. 利用者ニーズに応じた社会資源とは	利用者ニーズに対応する社会資源を実践事例から考える		
10	10. 家族のニーズに応じた社会資源とは	家族ニーズに対応する社会資源を、制度の視点から学習する		
11	11. 地域のニーズに応じた社会資源とは	地域ニーズに対応する社会資源について、自分が住んでいる地域での取り組みを調べる		
12	⑤介護過程のまとめ 12. ニーズと介護計画	ニーズの抽出から介護計画の立案までのポイントを復習する		
13	13. 介護計画を実施するために	介護計画を実施するためにポイントを復習する		
14	14. モニタリングから再評価へ	モニタリング、再アセスメントにおけるポイントを復習する		
15	15. 地域と介護	現在の地域社会における介護問題を考える		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容	
	介護福祉士養成講座 第10巻 中央法規 適宜資料、プリント配布	課題・レポート	100.0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護実習 I		介護福祉学科/2年	2025/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	32回	1.40単位(64時間)	必須	堀内 有美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の人物像の把握および、日常生活や生活環境、疾病、障害等を理解するために、基本的なコミュニケーション技術を習得し、介護職としての基本的態度、技術を養う。 ・地域に根ざした施設として、地域とどのように関わっているのかを理解するために、施設の役割、概要を知る。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の人物像の理解。 ・利用者の疾病、障害の理解。 ・積極的にコミュニケーションを図ることができる。 ・計画的な実習を取り組むことができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年、13年、11年、6年、看護師として23年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~32	備考欄参照			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
事前に配布するマニュアル、プリント		実習・実技評価	100.0%	②介護実習 I – ②(2年後期:64時間) 地域に根ざした施設の役割を理解し、在宅および家族へのケアのあり方を実習を通じて学ぶとともに、個別性を理解したコミュニケーションを図るとともに、利用者のニーズを理解し、自立支援に向けた介護実践が展開できるよう、ケアマネジメントシステムに基づいたチームケアのあり方を

回	テーマ	内容	
			<p>字ふ。</p> <p>【実習施設】 訪問介護、 老人介護支援セン ター、グループ ホーム、通所介 護、通所リハビ リ、特定施設入居 者</p> <p>生活介護、 小規模多機能型施 設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域 ニーズを把握し、 施設が地域にどの ように貢献してい るのかをワーク シートにまとめ る。 ・利用者 および家族に対す るケアを見学し、 ケアのあり方につ いてワークシート に記入する。 ・ケアマ ネジメントシステ ムに基づくチーム ケアについて考察 する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護実習Ⅱ		介護福祉学科/2年	2025/通年	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	80回	5.30単位(160時間)	必須	堀内 有美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 施設の役割を理解するとともに、様々な利用者の生活像および生活歴を把握し、介護過程の展開を図るための情報を収集し、ニーズの抽出、アセスメント、計画、実施、評価が一連の介護実践の中で実施できるための基本的な能力を養う。 利用者の生活のあり方について個別に考察し、自立支援に基づいた個別ケアを提供するための基本的技術を習得。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 施設の役割の理解。 利用者の生活像を理解するため情報収集ができる。 利用者ニーズを把握するための情報を分析できる。 福祉用具、福祉機器の知識を身につけ、実際に活用できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~120	備考欄参照			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
事前に配布するマニュアル、プリント		実習・実技評価	100.0%	②介護実習Ⅱー②(2年前期:120時間) 介護過程の展開を理解し、個別介護計画を作成することで、個別に援助することの重要性を理解し、利用者にあった介護計画の立案方法について学ぶ。 【実習施設】 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、身体障害者療護施設、障害者支援施設、救護施設 <ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズ抽出のために、アセスメントシートを作成する。 介護計画の作成。 福祉用具、福祉機器の知識および使用方法の習得。 個別性を考慮した介護技術

回	テ ー マ	内 容	内 容
			<p>を考えた介護技術の習得。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームケアのあり方を理解するために、ワークシートに記入する。 ・レクリエーションの実施。 <p>③介護実習Ⅱー③（２年後期：１２０時間）</p> <p>実際に立案した介護計画を実施し、モニタリング作業を通じて介護過程の展開の意義を理解する。また専門職としての介護技術を習得し、その場に応じた応用技術を身につける。</p> <p>【実習施設】 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、身体障害者療護施設、障害者支援施設、救護施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一連の介護過程（計画作成→実施→評価→修正）の展開を実施する。 ・ターミナルケアの理解を深める。 ・レクリエーションの実施。 ・家族支援のあり方について理解を深める。 ・自己の介護観についてまとめる。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害の理解Ⅱ		介護福祉学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	自立ケアシステム
授業の概要				
障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得し、障害について身体的・心理的に理解ができる。				
授業終了時の到達目標				
障害のある人の理解が深まり、支援について考えることができるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		自立ケアシステム香川職員であり、これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	障害の医学的側面の基礎知識	身体、精神、知的、発達障害、難病		
2	障害の医学的側面の基礎知識	障害に伴う機能の変化と日常生活への影響		
3	視覚障害者の特性について	先天障害と中途障害		
4	視覚障害者の特性について	視覚障害者の実態		
5	点字、点訳の基礎知識	点字の歴史、点字の仕組み		
6	点字、点訳の基礎知識	「語」の表し方		
7	点字、点訳の基礎知識	分かち書き		
8	点字、点訳の基礎知識	記号、符号の使い方、書き方の形式		
9~10	聴覚障害者の理解	先天障害と中途障害		
11~12	聴覚障害者の理解	聴覚障害者の実態		
13	手話とは	指文字、手話、口語、身ぶり、空書きなどの総称		
14	手話とは	手話はイメージで表現する		
15	手話とは	手の動く方向、手の位置、顔の表情		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第14巻 障害の理解 中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前学習】 事前にテキストを熟読しておくこと 【授業中】

回	テ ー マ	内 容	
			【採点内訳】 確認テスト：6 0% 平常点：4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医療的ケア演習		介護福祉学科/2年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	12回	0.60単位(24時間)	必須	菊本 暁人
授業の概要				
演習(4人ずつ実施×12時間) 喀痰吸引:口腔、鼻腔、気管カニューレ内部を各5回以上実施 経管栄養:胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養を各5回以上実施 救急蘇生法演習1回				
授業終了時の到達目標				
医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)を安全かつ適切に実施するために必要な知識、技術を学ぶ				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師として6年の実務経験あり これまでに実務経験を活かし学生のロールモデルになること		
時間外に必要な学修				
手順のDVDを見ておくこと				
回	テーマ	内 容		
1	喀痰吸引	喀痰吸引(口腔)演習		
2	喀痰吸引	喀痰吸引(鼻腔)演習		
3	喀痰吸引	喀痰吸引(気管カニューレ内部)		
4	喀痰吸引	喀痰吸引演習最終チェック		
5	経管栄養	経管栄養(経鼻経管)演習		
6	経管栄養	経鼻経管(胃ろう・腸ろう)演習		
7	経管栄養	経鼻経管最終チェック		
8	喀痰吸引、経鼻経管	喀痰吸引、経鼻経管まとめ		
9	救急蘇生法演習	救急蘇生法演習		
10				
11				
12				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第15巻 適宜プリント・資料配付		期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%	【事前準備】 テキスト、手順 DVDを見ておくこと

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅲ (家事)		介護福祉学科/2年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	新田 奈生子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・在宅ケアのあり方を理解し、利用者、家族に対しての生活支援の方法を学ぶ。 ・生活経営について理解し、生活マネジメント能力を養う。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・生活、生活形成のプロセス、生活経営等を理解し、実際の生活支援において具体的アプローチができるようになる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として23年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	①家事の意義、目的 1. 家事の意義、目的 1	家事の意義について学習する		
2	2. 家事の意義、目的 2	家事の目的について学習する		
3	3. 生活について 1	生活における家事の重要性について学習する		
4	4. 生活支援	IADLの支援について学習する		
5	②アセスメント 5. ICFの視点にもとづくアセスメント 1	IADLに関するアセスメント方法を学習する		
6	6. ICFの視点にもとづくアセスメント 2	IADLに関するアセスメント方法を学習する アセスメントシートを記入する		
7	③家事の介助の技法 7. 家事意欲について	家事意欲を高めるための支援方法を学習する		
8	8. 家事意欲を高める介護の工夫	家事意欲を高めるための、コミュニケーション、環境整備について学ぶ		
9	9. 調理 (加工食品の活用と保存、配食サービス等のサービスについて)	食品の保存方法について学習する		
10	10. 衛生管理	食中毒等の危険性を学び、衛生管理方法を学習する		
11	11. 家庭経営	家庭経営について学習する		
12	④利用者の状態、状況に応じた介助の留意点 12. 感覚機能が低下している人の介助の留意点	感覚機能が低下している人の家事支援方法について学ぶ		
13	13. 運動機能が低下している人の介助の留意点	運動機能が低下している人の家事支援方法について学ぶ		
14	14. 認知、感覚機能が低下している人の介助の留意点	認知、感覚機能が低下している人の家事支援方法について学ぶ		

回	テーマ	内 容		
15	⑤他職種の役割と協働 15. 他職種の役割と協働	他職種と協働し、家事支援方法を学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第6巻 第7巻 第8巻 規 適宜資料、プリント配布		総合評価 中央法	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを 熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：6 0% 平常点：4 0%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こころとからだのしくみⅢ		介護福祉学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	菊本 暁人

授業の概要

基礎知識を基に利用者の入浴・清潔保持、排泄、睡眠の生活を支える介護実践との関係を学ぶ。死に関連した法律及び機能的、身体的、心理的变化を学び、死に行く人の家族も含めた総合的な支援について学ぶ。

授業終了時の到達目標

入浴・清潔、排泄、睡眠の生理的・心理的意味を理解し、介護実践に結びつけた援助の方法を考えることができるようになる。
終末期から危篤、死亡時についてこころとからだの変化を理解し、家族をふくめた支援を考えることができるようになる。

実務経験有無	実務経験内容
有	看護師、助産師として6年の実務経験あり これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること

時間外に必要な学修

テキスト配布プリントを復習しておくこと

回	テーマ	内容
1	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	入浴の必要性、メリット・デメリット
2	入浴、清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識	入浴時の観察のポイント、医療職との連携
3	機能低下の障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響	精神機能の低下・身体機能の低下が及ぼす影響
4	排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄のしくみ
5	排泄に関連したこころとからだの基礎知識	排泄での観察ポイント
6	機能低下、障害が及ぼす排泄への影響	精神、判断力の低下、身体機能の低下が排泄に及ぼす影響
7	生活場面でのこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	尿失禁、便失禁について 排泄での医療職との連携ポイント
8	生活場面でのこころとからだの変化の気づきと医療職との連携睡眠に関連したこころとからだのしくみ	睡眠のしくみ
9	睡眠に関連したこころとからだの基礎知識	レム睡眠とノンレム睡眠
10	機能低下、障害が及ぼす睡眠への影響	睡眠障害
11	生活場面でのこころとからだの変化の気づきと医療職との連携	生活習慣と睡眠、疾患と睡眠
12	終末期から死までの変化と特徴	終末期における身体症状の変化を学ぶ
13	死に対するこころの理解	家族、本人に対する心理的理解
14	医療職との連携のポイント	ターミナルケアにおける医療職との連携

回	テ ー マ	内 容		
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第11巻 中央法規 適宜資料、プリント配布		期末試験 出席率	60.0% 40.0%	<p>①入浴、清潔保持 に関連したところ とからだのしくみ 入浴、清潔保持 に関連したところ とからだの基礎知 識 機能低下の障害 が及ぼす入浴、清 潔保持への影響</p> <p>②排泄に関連した ところとからだの しくみ 排泄に関連した ところとからだの 基礎知識 機能低下、障害 が及ぼす排泄への 影響 生活場面でのこ ころとからだの変 化の気づきと医療 職との連携</p> <p>③ 生活場面でのこ ころとからだの変 化の気づきと医療 職との連携睡眠に 関連したところと からだのしくみ 睡眠に関連した ところとからだの 基礎知識 機能低下、障害 が及ぼす睡眠への 影響 生活場面でのこ ころとからだの変 化の気づきと医療 職との連携</p> <p>④死に行く人のこ ころとからだのし くみ 「死」の捉え方 終末期から危 篤、死亡時のから だの理解 「死」に対する こころの理解 医療職との連携</p>

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間関係とコミュニケーション		介護福祉学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	4単位(30時間)	必須	豊田 章裕
授業の概要				
・介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う ・他者理解や情報の伝達に必要なコミュニケーション能力を養う 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	介護福祉士として9年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントの復習をしておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①コミュニケーション基礎 1. 自己覚知、他者理解	自己覚知、他者理解の方法を学習する		
2	2. ラポール1：支援関係における人間関係の重要性について	人間関係の仕組みについて解説する		
3	3. ラポール2：職業倫理をふまえた専門的支援関係について	職業倫理と専門的支援関係を学ぶ		
4	4. 対人関係1：コミュニケーションの意義	対人関係におけるコミュニケーションの意義を学ぶ		
5	5. 対人関係2：コミュニケーションの概要	対人関係におけるコミュニケーションの概要について学ぶ		
6	6. 言語的コミュニケーション(理論)	言語的コミュニケーションの特徴について学習する		
7	7. 非言語的コミュニケーション(理論)	非言語的コミュニケーションの重要性を学び、ロールプレイを行い理解を深める		
8	②コミュニケーション技術 8. 対人距離	対人距離についてロールプレイを行い、適切な対人距離を知る		
9	9. コミュニケーション環境	適切なコミュニケーション環境を学ぶ		
10	10. 受容、傾聴、共感	受容、共感、傾聴について学習し、グループワーク等で理解を深める		
11	11. 様々なコミュニケーション手段について1:道具を用いた言語的コミュニケーション	文字媒体を活用したコミュニケーションを考え、グループワークを行う		
12	12. 様々なコミュニケーション手段について2:記述によるコミュニケーション	相手に伝わるための記録について学習する		
13	13. 言語的コミュニケーション(演習)	相手に伝わる言語的コミュニケーションを考える		
14	14. 非言語的コミュニケーション(演習)	グループワーク、ロールプレイにより非言語的コミュニケーションの効果を学習する		
15	15. 多職種との連携、まとめ	多職種連携を図る上でのコミュニケーションの重要性を学習する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容	
介護福祉士養成講座 版 適宜資料、プリント配布	第 1 巻 中央法規出版	総合評価	100.0% 【事前準備】 事前にテキストを 熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト60% 平 常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活と福祉		介護福祉学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	山本 元
授業の概要				
<p>・個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助にいたる過程について理解するための学習とする。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>・個人主体の福祉から社会中心の福祉への転換理由を述べることができ、自分なりの意見を表明できる。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	①家庭生活の基本機能 1. 生産・労働、教育・教養、保健・福祉、生殖、やすらぎ、交流、その他	家庭生活の基本機能について解説を行う		
2	2. 生産・労働、教育・教養、保健・福祉、生殖、やすらぎ、交流、その他	家庭生活の基本機能について解説を行う		
3	②家族 3. 概念、変容、形態、機能、役割、家族観	家族について学習する。		
4	③地域 4. 地域の概念、コミュニティの概念	地域の概念について学習する		
5	5. 都市化と過疎化	都市化と過疎化の問題点について学習する		
6	6. 地域社会の集団・組織	地域社会の集団、組織の役割を学習する		
7	④社会、組織 7. 社会、組織の概念、機能、役割	社会の仕組み、組織について学習する		
8	8. グループ支援、組織化、エンパワメント	グループの支援方法について学習する グループワークを活用		
9	⑤ライフスタイル 9. 雇用について	雇用問題について解説し、現代の雇用問題を調べる		
10	10. 少子化、健康寿命の延長について、余暇時間の延長における生涯学習、地域活動の参加について	少子高齢化の問題と地域社会の問題を説明する		
11	⑥社会構造 11. 産業化・都市化	産業化、都市化について学習する		
12	12. 地域社会の変化	地域社会がどのように変化しているのかを学ぶ		
13	⑦生活支援と福祉 13. 生活の概念	生活の概念の変化を学ぶ		
14	14. 福祉の考え方とその変遷	福祉の考え方の変化を歴史から学ぶ		
15	15. 自助、互助、共助、公助について	自助、互助、共助、公助について説明を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

回	テ ー マ	内 容
介護福祉士養成講座 出版 適宜資料、プリント配布	第2巻 中央法規 総合評価	100.0% 【事前準備】 事前にテキストを 熟読しておくこ と。 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医療的ケア		介護福祉学科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	34回	3.40単位(68時間)	必須	菊本 暁人

授業の概要

介護福祉士として、喀痰吸引や経管栄養などの医療的ケアに関する知識と技術を習得し、安全かつ適切な実施ができるようになり、尊厳を守りながら医療的ケアを提供できるようになる。

授業終了時の到達目標

- ・医療的ケアの基礎知識(制度的背景、倫理、安全管理)を理解する。
- ・喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管カニューレ)、経管栄養(鼻腔・経鼻)について知識と手順を理解する
- ・安全な実施のための観察・記録報告ができるようになる
- ・チームアプローチの重要性と医療食との連携方法を理解する。
- ・感染防止策および緊急時の対応の基本を習得する。

実務経験有無

実務経験内容

有
看護師、助産師として6年の実務経験あり
これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	医療的ケアの意義と概要	医療的ケアの定義、目的、介護福祉士の役割、法的根拠(社会福祉士及び介護福祉士法)
2	医療的ケアにおける安全と倫理	安全確保の原則
3	人体構造と機能	人体構造の基礎、主要臓器の概要
4	呼吸器の構造と働き①	気道・肺の構造、換気のしくみ、咳・痰について
5	呼吸器の構造と働き②	酸素と二酸化炭素の交換、呼吸状態の観察項目
6	消化器の構造と働き①	口腔～食道の構造と働き、摂食嚥下機能の理解
7	消化器の構造と働き②	胃・腸・肝臓・膵臓の働き、消化と吸収
8	感染予防と衛生管理	感染経路、標準予防策
9	喀痰吸引の意義と概要	喀痰吸引の対象・適応、医療的ケアとしての役割
10	吸引に使用する器具と準備	吸引機・カテーテル・個人防護具などの使用方法と準備
11	吸引における観察とアセスメント	呼吸音・顔色、意識状態など、実施前後の観察点
12	口腔内吸引の実施	手順、体位、実施時の注意点
13	鼻腔内吸引	実施方法、カテーテル挿入深度の目安
14	気管カニューレの基礎知識	カニューレの種類、構造、感染予防

回	テ ー マ	内 容
15	気管カニューレ吸引の実施①	実施手順、安全管理、観察項目

回	テーマ	内容		
16	気管カニューレ吸引の実施②	実技練習・ケース演習		
17	吸引後のケアと記録	実施後の観察、口腔ケア、記録と報告の方法		
18	経管栄養の意義と基本知識	経管栄養の目的、対象者、リスクとメリット		
19	栄養剤とチューブの種類	栄養剤の種類、保存方法、経鼻経管と胃ろうの違い		
20	経鼻経管栄養の意義と基礎知識	チューブ確認、体位調整、注入準備		
21	経鼻経管栄養の実施	実施手順、誤嚥・嘔吐予防、注入速度		
22	胃ろうの基礎知識	胃ろうチューブの構造、挿入部位の管理、感染予防		
23	胃ろう栄養の準備	栄養剤準備、器具確認、体位確認		
24	胃ろうの実施	注入手順、洗浄方法、異常時の対応		
25	栄養後の観察と記録	呼吸状態、嘔吐・腹部膨満の確認、記録の方法		
26	医療的ケアにおける緊急対応	吸入や栄養中の以上、窒息・誤嚥・チューブ事故などの対応		
27	多職種連携と報告連絡相談	医師・看護師・家族との情報共有と役割分担		
28	喀痰吸引①	模擬実技手順確認、チェックリストについて		
29	喀痰吸引②	模擬実技手順確認、チェックリストについて		
30	経管栄養①（経鼻経管）	注入手順の練習と評価		
31	経管栄養②（胃ろう）	注入と洗浄の流れ確認・練習		
32	総合演習	ケース対応、時間配分、観察→実施→記録まで一連の流れ演習		
33	事例検討・リスクマネジメント	医療的ケア中に起こり得る事例の分析と対応策検討		
34	総まとめと評価	知識確認テスト、技術評価、振り返りと今後の課題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 医療的ケア				